

岡山大学病院の肝がん対策 肝疾患サポートチームの取り組み

大塚 理可¹ 上原 亜希¹ 杉野 理紗子¹ 藤迫 尚子¹ 難波 志穂子²
池田 房謙³ 久保 寿夫⁴ 土居 弘幸⁵ 田端 雅弘⁴ 惣原 美夫⁶

1 岡山大学病院 消化器内科 2 岡山大学病院 消化器科 3 岡山大学病院 消化器科 4 岡山大学病院 消化器科 5 岡山大学病院 消化器科 6 岡山大学病院 消化器科



岡山県における肝がんの現状

岡山県における2014年の肝がん年齢調整罹患率（人口10万人対）は男性26.8、女性8.7と男性は女性の3倍である。2016年の岡山県の肝がん死亡数は男性307人、女性187人であり、男性では悪性新生物の部位別死因の第3位である（図1、2）。岡山県で2011年に診断された肝がんの5年相対生存率は男性49.7%、女性36.4%であり、女性は男性よりも低い状況である（図3）。

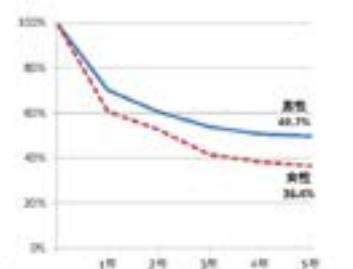
図1 2016年 岡山県がん死亡割合 男性（上位10部位）



図2 2016年 岡山県がん死亡割合 女性（上位10部位）



図3 2011年 肝がん5年生存率（岡山県）



当院における肝がんの現状（2016年）

主要ながんの中でも肝がんは発症しても自覚症状が少なく、背景に慢性肝疾患があることが特徴である。更に多発であったり、再発を繰り返す傾向にあり、進行した病態となる前の早期発見が重要となる。当院の2016年登録症例のうち肝がんは130件で、うち約7割が慢性肝炎経過中の発見であり、背景にある肝疾患は2016年登録症例の71.5%がウイルス性肝炎関連の疾患、非ウイルス性の慢性肝疾患が17.7%であった。

当院の肝がん・肝炎対策

当院では2007年に岡山県肝疾患診療連携拠点病院として認定されたことにより、肝疾患の生活相談、肝炎治療の相談、肝炎ウイルス慢性患者への受診勧奨などを目的として肝炎相談センターを併設している。2013年には医師や看護師、薬剤師や管理栄養士など多職種による「肝疾患サポートチーム」を構成し、現在では出張肝臓病教室やイベント肝炎検診など肝炎啓発活動を積極的に実施している。出張肝臓病教室は企業や就労団体からの依頼により開催され、特に肝炎に対する差別、偏見の解消、肝炎ウイルス検査を受けることへの重要性について医師や看護師などが講演している。最近では非ウイルス性肝疾患の予防、辺地に対する生活習慣の改善に関する内容も企業や就労者側のニーズに合わせて追加した。イベント肝炎検診は、各市町村の健康祭りや運動会、地域の病院フェスタに合わせて計画している。費用面については、岡山県、岡山市、倉敷市と協力し、ウイルス性肝炎の検査を無料で実施している。普段あまり肝炎や肝がんに対して意識をしていない方々が、10分程度の問診と採血で検査が出来るので気軽に受診している。結果は全員に郵送され、男性の方には病院の職員から直接電話でも連絡をし、肝臓専門医への確実な受診を促すための勧奨も行っている。

今後の課題として、様々な場面での受検・受診勧奨等の相談に関わる職員や教育体制の構築が一層重要となるため、「肝疾患サポートチーム」の定例会にて肝炎啓発活動に関わる職員とともに相談対応における品質向上を推進した取り組みを検討しているところである。

イベント検診 受検者数 陽性者数

	受検者数	HBs抗原	HCV抗体
平成27年度	477人	5人	3人
平成28年度	808人	4人	4人
平成29年度	1,348人	4人	14人

